



「キトラ古墳壁画体験館

しじん 四神の館」 オープン!

国営飛鳥歴史公園の5番目の地区として、平成28年9月24日にキトラ古墳周辺地区が開園し、園内に「キトラ古墳壁画体験館 四神の館」がオープンした。キトラ古墳（特別史跡）は、石室内に大陸風の壁画が描かれた希少な古墳で、7世紀末から8世紀の初めに築かれた。これまで墳丘や石室、壁画など細部にわたる調査研究と、保存のための修理事業が行われてきた。「キトラ古墳壁画体験館 四神の館」は、キトラ古墳とその壁画をわかりやすく楽しく学べる体験型の施設。

■「キトラ古墳壁画体験館 四神の館」の概要

本館と別館に分かれており、本館地下1階はキトラ古墳やキトラ古墳壁画などについて楽しく学べる展示室、1階は文化庁がキトラ古墳壁画やキトラ古墳からの出土遺物を保存管理する施設。別館には「売店・休憩所」や体験プログラムが楽しめる「体験学習室」がある。



「キトラ古墳壁画体験館 四神の館」
(本館：左上の建物・別館：右下の建物)

◆展示室（本館地下1階）

キトラ古墳やキトラ古墳壁画、渡来文化と古代飛鳥などを4つのゾーンに分けて展示解説する。

《キトラ古墳の概要ゾーン》

壁画の内容と造営技術、キトラ古墳の時代性や当時の思想などを紹介し、キトラ古墳とその時代の理解を促す展示を行っている。原寸大で精巧に再現された石室模型も展示されている。

《キトラ古墳壁画ゾーン》

壁画の映像を4面マルチビジョンで映し出し、壁画の詳細やキトラ古墳壁画と高松塚古墳壁画の

比較を視覚的に体験できる。実物展示では確認しにくい、壁画の筆跡や漆喰の質感まで確認することが出来る。



大迫力の4面マルチ高精細映像

《キトラ古墳調査・研究のあゆみゾーン》

古墳の発見から埋戻しに至る経緯をドキュメンタリータッチで紹介し、文化財保存の意義や、今もなお継続して行われている調査・研究について紹介。

《渡来文化と古代飛鳥ゾーン》

檜隈寺跡、檜前遺跡群の遺構や出土物を通じて古代飛鳥の生活や風景を想像し、古代飛鳥における渡来人の存在を知ること、壁画に見られる東アジアの影響をより深く理解する。

◆キトラ古墳壁画保存管理施設（本館1階）

壁画の実物や古墳からの出土物を保存管理する施設。キトラ古墳壁画については、四半期ごとに公開される予定。出土遺物は、壁画非公開時でも開室中は観覧可能。（観覧時間あり）

■国営飛鳥歴史公園とは

総面積は約60haで飛鳥の豊かな自然と文化遺産の保護、活用を図るため国土交通省によって整備された。「日本人の心のふるさと」を基本テーマとして、いままでに石舞台、甘檜丘、祝戸、高松塚周辺の4地区が開園していたが、5番目としてキトラ古墳周辺地区が開園した。

(詳しくは URL <http://www.asuka-park.go.jp/>)

飛鳥の豊かな自然の中で、深い歴史を解りやすく解説することにより、多くの人々が訪れてくれるきっかけになることを期待する。(奥 桂子)